

支援プログラム

<基本情報>

事業所名	高山市立いきいき広場
作成年月日	令和8年3月1日
目的	療育指導を必要とする児童に対し、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を提供することを目的とする。
運営方針	・利用児童が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、利用児童等の心身の状況及び置かれている環境に応じた適切かつ効果的な指導及び訓練を行う。 ・事業の実施にあたっては、高山市、地域の福祉・保健・医療サービス事業者等との密接な連携に努めるものとする。
営業時間	いきいき広場 月曜日から土曜日 午前8:30～午後5:15 おひさま教室 月曜日から金曜日 午前8:30～午後5:15 すくすく教室 月曜日から金曜日 午前8:30～午後5:15 ※ただし、国民の祝日及び12月29日～1月3日を除く
送迎	保護者の責任において行う

<支援内容>

本人支援	発達支援。お子さんの発達特性に合わせ、ペア、小集団又は個別で支援します。姿勢保持や身体の使い方のぎこちなさがあるお子さんに対しては、運動遊びを通して、体の動かし方を知ったり、重力に負けない体づくりをします。社会性の発達に支援が必要なお子さんに対しては、集団遊びを通して、友だちと上手に関わって遊べるように、また、ことばの発達に支援が必要なお子さんには、理解力やことばの表現力を高められるような支援を行います。 ※ 5領域の支援内容は別紙。
家族支援	保護者に対して、こどもの特徴を理解し、子育ての不安や悩みが軽減されるように支援します。就学について、また子育てについての相談ができるように、保護者向けの勉強会や相談会を計画したり、ご案内します。年に1回程度、在籍の園に訪問し、お子さんの集団での様子や課題について把握し、保護者と共有します。
地域支援 地域連携	地域の保健・医療あるいは幼稚園・保育所・学校等との連携を図り、総合的な発達の支援を行います。 園訪問、市教育委員会との連携、学校への引き継ぎ等、必要に応じた情報共有を行います。
行事	就学に向けた保護者説明会、親子活動
移行支援	お子さんの発達状況や園での様子に合わせて、他事業や医療(訓練等)をご紹介します。
職員の 質の向上	県や市、各児童発達支援事業所、発達支援に係る団体で実施される研修に参加したり、事業所内で職員研修を実施したりし、知識や技術の向上を目指しています。

5領域の支援

児童発達支援計画書は、お子さんの支援を以下の5つの領域の視点に基づいて作成します。

1. 健康・生活 に関する領域
2. 運動・感覚 に関する領域
3. 認知・行動 に関する領域
4. 言語・コミュニケーション の獲得に関する領域
5. 人間関係・社会性 人との関わりに関する領域

5領域の支援内容は、お互いに関連して成り立っており、重なる部分もあります。

お子さんへの支援の大きな目標は、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするものです。家庭や地域社会での生活に活かされるために行われるものであり、園や学校に引き継がれていくと良いものです。

健康・生活	<p>○健康状態を把握します。睡眠、食事、排泄等、生活に必要な基本的技能を獲得し、生活リズムを身に付けられるように支援します。</p> <p>排泄:トイレで排泄する、尿意便意を伝える、拭き取り、自宅以外のトイレの使用など 食事:食事につながる所作、スプーンや箸等の使い方、着席して食事することができる力を育てる 着替え:自分で着脱(衣服の前後左右の理解、ボタン、ファスナー、靴下の操作)、衣服の調整 その他:睡眠、歯磨き、うがい、手洗い、鼻かみ、清潔の意識</p>
運動・感覚	<p>○姿勢と運動・動作の向上と補助的手段の活用について支援します。自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常的に必要な移動能力の向上のための支援を行います。視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援し、感覚や認知の特性(過敏、鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。</p> <p>・姿勢の保持、体幹を鍛える、力のコントロール、片足ケンケン、手先の巧緻性、協調運動、人との距離感、感覚統合など</p>
認知・行動	<p>○視覚、聴覚、触覚等の感覚を活用して、必要な情報を収集する認知機能の発達を促す支援をします。環境から情報を獲得し、行動につなげることや、物の機能や属性、形、色、音、空間、時間等の概念から認知や行動の手がかりとして活用できるように支援します。数量、形の大きさ、重さ、色等の習得、情報の適切な処理、認知の偏り等の個々の特性に配慮した支援を行います。</p> <p>理解言語、目の前にないことへの理解(過去、未来、知識等) 全体指示、個別指示の理解(単語、二語文、文章、複数指示) 理解の手がかり(物の提示、指差し、写真や絵カード、文字) 数量、大小、色、重さなどの抽象的な物事の理解、簡単なルールの理解、順番、交代、競争、協力等興味の偏り、こだわり、落ち着きへの対応</p>
言語・コミュニケーション	<p>○具体的な事物や体験と、ことばの意味を結びつけることによる言語の習得や、自発的な発声を促します。話し言葉やシンボル、絵、写真等の視覚的支援を用いて相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりする等、言語を受容し表出する支援を行います。視線、指差し、サイン、カード、機器などを合わせて、環境の理解と意思の伝達をするためのコミュニケーション手段を活用できるように支援します。</p> <p>発語の有無、レベル(視線、音声、ワードバーチャル、単語、幼児語、2～3語文、文章、助詞、抑揚) 発話量(多い、少ない、1人しゃべり)、発音の明瞭さ 発話の状態(流暢性、抑揚、大人びた話し巧、型通りの話し方、一方的な話し方、家庭以外で話さない) 要求、拒否、気持ちの表現方法、二項関係、三項関係、共同注意、共感、やりとりの仕方</p>
人間関係・社会性	<p>○身近な人との親密な関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行います。人の動きを模倣したり、見立てあそびやごっこあそび等の象徴あそびをしたりすること、1人あそびから並行あそび、大人が介入する連合的あそびを通して、社会性の発達を支援します。自分を理解するとともに、気持ちや情動を調整し、手順やルールを理解して集団活動に参加ができるよう支援します。</p> <p>全体指示、個別指示に応じて行動する。活動、場面の切り替え。 大人:母子関係、愛着関係、信頼関係 こども:友だちへの興味、関心、模倣、同調、協調、協力、折り合いをつける、譲る等 自己主張、社会的参照行動(やっていい?)、社会的承認欲求(見て見て!)、仲間意識、帰属意識、良い悪いの理解、自己理解(できること、できないこと等)、自己調整力(感情や行動のコントロール)、自己肯定感</p>

